

# 小さな群れ

カトリック美唄教会

2022年5月 No.300

2022年4月24日発行

主任司祭 ナルチゾ神父

未だに新型コロナウイルスが猛威を振るっているとはいえ、  
典礼では、復活の雰囲気満ちあふれる中で迎える5月です。

復活の主に出会った喜びと感謝は、わたしたちに生きるエネルギーを与えてくれます。この季節は自然も応援してくれています。教会は伝統的に、この時期に秘跡教育を大切にしてきました。そのため、この期間の福音書は、ヨハネの福音書が使用されてきました。また、4月に引き続き、第1朗読は旧約の朗読に



代わって使徒言行録が読まれています。平日も使徒言行録を毎日読んでいきます。この書を読んでいくと、どのように教会が誕生し、成長していったかが生き生きと伝わってきます。50日間の復活節は、来月6日の聖霊降臨で終わります。今月、忘れてならないのは、教会生活において、この月が聖母マリアにささげられてきたことです。教皇フランシスコはウクライナとロシアを聖母マリアの汚れなきみ心に奉献し、聖母の取り次ぎによる平和を求めて、共に祈ることを全世界によびかけました。

教皇フランシスコと心を合わせて聖母に祈りましょう。

5月の豊かな典礼に養われながら、復活の主に出会った喜びと感謝の日々となりますように。そして、平和が訪れますように。（参考：Laudate）



# 2022年5月 主日ミサ・平日のミサ 予定

美唄教会 小さな群れ  
2022年5月 No.300  
2022年4月24日発行

今月は、聖母月 ミサ前 10:30~ロザリオの祈り

日	曜	ミサ		各種勉強会	会議・その他事項
		主日・祭日	時間		
1	日	復活節第3主日	午前 11:00		
6	金		午前 10:30	ミサ後 聖書に親しむ	
8	日	復活節第4主日	午前 11:00		運営委員会
13	金		午前 10:30		ファテマの聖母の日
15	日	復活節第5主日	午前 11:00		
18	水		午後 18:00		ロザリオ会
20	金		午前 10:30	ミサ後 聖書に親しむ	
22	日	復活節第6主日	午前 11:00		
27	金		午前 10:30	ミサ後 聖書に親しむ	
29	日	主の昇天祭	午前 11:00		

《 平日のミサ 》 **金曜日のみ 午前 10:30** 6・13・20・27日です  
《 聖書を親しむ 》 平日のミサ後、旧約聖書に親しんでみませんか。

霊名の祝日	清掃当番	花 当番
24日 ソフィヤバラ 東 梢	第2週 小川(ま)・米通 第4週 河野	大城

## 【お知らせ】

- ◎四旬節 愛の献金 37,000円でした。
- ◎4/30(土) マリア像の花輪飾り付け
- ◎5/22(日) ミサ前 9:00~春の大掃除
- ◎5/26(木) ナルチゾ神父様お誕生日

## 【幼稚園行事】

- ◎5/31(火) お誕生会(聖堂にて)

ヒルデガルド佐々木榮子さんを偲んで

河野 智子

私ではおこがましいのは重々承知していますが、幸いにも最期に居合わせた者として書き記しておきます。

佐々木先生とお呼びします。佐々木先生は私達家族の恩人です。我が家の二人の息子達を大切に可愛がって下さいました。二郎が大病して入院した時、スーツにアスコットタイを付けて何時でも教壇に立てる姿で見舞って力づけて頂きました。

太郎が家を離れる時、車で我が家から駅まで送ってくれ、家族との別れをゆっくりしなさいと、控えめに少し離れて静かに送ってくれました。木製の鼻のしおりを手渡し森の知恵のある博士で学問のお守りになるから勉学に励むように、おフクロさんを忘れないようにと、お言葉を頂きました。

息子達は佐々木先生の祈りは本物と信じていて自分たちのために祈ってくれることに喜び、安心感を頂いていました。私が「お祈りしているよ」と、言うとお母さんじゃねえ」と、こんな調子です。

佐々木先生の戦争、引き上げて来た頃の話を引き込まれるように沢山聴かして貰いました。食料、住まう家に困らない美唄を選んで小学校で教鞭を取られました。花田病院に、佐々木先生の教え子が勤務していて卒業アルバムを持ってきてくれました。「あら、私だわ」と喜ばれました。スキー遠足の時、佐々木先生の家で暖を取らせて貰ったそうです。子供達を大変可愛がり、給食の献立、栄養計算何でもやっていた事を伺いました。

皆様が御存知のとおり大変信仰深く、神父様、修道院には細やかにお世話、支援をなさっていました。自分はシスターになれないが外から応援すると決めて修道院に野菜や魚を車で峠越えをして運びました。強い意志とバイタリティを感じます。

晩年お一人暮らしが困難になりケアハウスに入所しました。シルバーカーを押して施設内を歩かれていました。職員さんから、何時もニコニコ優しい榮子さんに癒されると、人気がありました。

花田病院、介護医療院に入所してからディルールのピアノを両手で童謡を弾き、起立礼のあの伴奏はお見事でした。背もたれの無いピアノの椅子が背中が丸くなり摩れて赤く成っている部位が当たらず良かったのか少し長く座っていられました。「私ばかりじゃ悪いから誰か替わって」と言いましたが職員すら誰も弾ける人がいませんでした。

最期迄ポータブル便器を使用しました。本人の強い意向を尊重しお世話をしました。「先生寂しくないですか」と、尋ねると「何時も神様が側にいてくれるから大丈夫、寂しくないよ」と答えてくれました。でもその日が近づいてくると私の手や腕に触れる事が多くなりました。私がベッドサイドから立ち去ろうとすると白衣の後ろのベルトを掴んで放さないで、手を止めて抱きしめて差し上げました。「私も寂しいよ～」と言うと、私の頭を優しく撫でてくれました。佐々木先生の顔を見上げるとマリア様のように優しいお顔でした。

コロナ禍のため面会謝絶で神父様や親しい皆さんに会う事が叶いませんでした。皆様に成り代わって「佐々木先生 ありがとうございます。」と何度もお伝えしました。

最後はお一人で、天使がお迎えに来てずっと天国に昇って行かれたと信じています。この仕事を長く続けている看護師が気付かないほど静かに呼吸状態も心臓の波形も悪くなく苦しい表情一つせず、あつと言う間の事で初めての経験でしたと話されました。

介護医療院に入所してから、キャビネットに赤いバラを絡めた十字架を掲げると「あっ久しぶり」と、大変喜ばれました。病室が一変し同室者、職員がハットしました。それから数日後「この神様の教会に行っているのですか、何処にありますか」介護員のオヌマさんが訪ねていました。もうビックリです。オヌマさん姉妹がカトリック教会に来るきつ掛けに成りました。最期まで信仰の種を蒔き続け、祈りの人でした。優しく周りの人に目と気を配り、愛を持って人を大切にしてくれました。佐々木先生に憧れ、何時の日か私も誰かに憧れてもらえるように励んで行きます。

1922年9月2日 生  
1966年4月10日 受洗  
2021年9月26日 永眠 享年99歳

ヒルデガルド佐々木榮子さんを尊敬し感謝します。  
ご冥福を心よりお祈り致します。

